



4 見て触れて楽しめる港

将来像

大都市でありながら、多様な海洋性レクリエーションを身近に体験したり、開港以来の歴史的建造物や臨海工業地帯の産業遺産、最先端の物流機能などについて見たり学んだりすることができる、港自体が資源となった見て触れて楽しめる港

実現イメージ

◎港の過去・現在・未来の機能を活かし、触れて、学び、楽しむ魅力づくり

歴史的建造物や美しい街並み、みなとみらい21地区や横浜ベイブリッジなどの近未来的な景観などに加え、コンテナターミナルの荷役風景など、横浜港の様々な魅力について、見るだけでなく触れ、学び、楽しんでいる。

◎「見る」インナーハーバーから「楽しむ」インナーハーバーへ

インナーハーバーでは、誰もが身近に水辺や砂浜に接することができ、マリンスポーツを始めとしたレクリエーションやスポーツ医学をとら入れた健康維持活動などを楽しんでいる。

◎「シー・エンターテインメント」の創造

海洋型のレクリエーションを楽しむための講習会やインストラクター、機材等のレンタルやマリショップ、工房などが集積し、「シー・エンターテインメント」産業が形成されている。

◎クルーズ船の拠点港化

日本流のクルーズスタイルが確立され、定期クルーズの拠点として、横浜港では大型クルーズ船が発着している。

◎水上交通ネットワークの形成

東京湾内の各港とも結ばれた水上バスは、水上からの景色が楽しめるとして人気があるほか、渋滞がない交通機関として日常にも使われている。

◎すべての人にやさしく、回遊性の高い都市・交通環境

横浜港の中や関内・山手地区などの周辺地区の観光スポットの間は、歩道や自転車道、水上バスなどのほか、多様な交通機関が整備され、誰にとっても使いやすい交通環境が形成されている。

◎羽田空港や国際フェリー航路を活用した海外からの観光客の誘致

羽田空港や国際フェリー航路などを利用してアジアの近隣地域からの来訪者が多く訪れている。



内陸観光資源との連携

「見る」インナーハーバーから「遊ぶ」インナーハーバーへ

- ◎ボードウォークなどの親水空間
- ◎マリンスポーツや海水浴
- ◎港内遊覧船、水上バスネットワーク
- ◎クルーズ船の拠点港化

物流機能、生産機能の観光資源化

- ◎歴史的資産の活用
(赤レンガ倉庫、臨海工業地帯の産業遺産…)
- ◎最先端の港湾機能の観光資源化
(最新鋭のコンテナターミナルの荷役風景…)

実現のポイント

- ◎既存観光資源の連携やさらなる魅力づくり、新たな魅力開発とホスピタリティの向上
- ◎誰にとってもアクセスしやすい交通環境づくりや回遊性の確保
- ◎陸域・海域とも、すべての市民が利用できる空間と、安全性を考慮し一般市民の出入りが制限される空間の適切なゾーニング